

報告事項（４）

定例教育委員会報告資料	
平成29年9月27日	
担当課	教育総務課校区審議室
電話(内線)	20-3089(5155)

「江山校区の学校のあり方について」の要望書の提出について

平成25年1月、第11期鳥取市校区審議会の「中間とりまとめ」で、神戸小学校及び江山中学校について、特に検討を急ぐべき過小規模校として示されました。

これを受け、江山校区において、平成28年10月に「江山校区の学校のあり方を考える会」が設立され、将来の学校のあり方についての考え方をまとめるため協議・検討がなされました。そしてこの度、地域住民の総意として地域における望ましい学校のあり方をまとめ、下記のとおり市長及び教育長に「江山校区の学校のあり方について」の要望書を提出されました。

記

提出日 平成29年9月19日（火）
提出者 「江山校区の学校のあり方を考える会」会長 近藤浩和 他2名
受取者 鳥取市長 深澤義彦、鳥取市教育委員会教育長 尾室高志
内 容 江山中学校、美和小学校、神戸小学校の3校による小中一貫校設立の検討をお願いしたい。

美穂・大和神戸地区の伝統文化を継承しつつ、子ども同士のつながりを深めるとともに、小中一貫校の9学年という多学年との対話をもとにした交流を軸として、学校生活や学力の向上を含め、自分の考えや思いを伝えられる力や誰とでも関わることができるコミュニケーション能力の高い子どもを育成していただきたい。

要 望 書 別紙のとおり

平成29年9月19日

鳥取市長
深澤義彦様

江山校区の学校のあり方を考える会
会長 近藤浩和



江山校区の学校のあり方について（要望）

江山中学校区の神戸小学校と美和小学校、江山中学校は小規模化が進み、平成24年の第11期校区審議会において、優先度が高い「小規模化により教育上の問題が発生する（懸念される）」として学校規模過小規模校A1に指定されました。

神戸地区は平成28年に「近隣の小中学校との小中一貫校又は統合等を望む」要望書を鳥取市教育長へ提出しました。

それを受けて、28年に美穂・大和地区は神戸地区を含め、3地区の代表からなる「江山校区の学校のあり方を考える会」を組織しました。神戸小学校の要望と江山中学校区の学校の現状と今後の方向性についての地区説明会を開きました。また、委員や各地区の方と小中一貫校に出向いて視察会を行い、18歳以上の美穂・大和地区の住民を対象として、今後の江山校区の学校のあり方を問うアンケートを実施しました。

アンケートの結果は、神戸小学校と美和小学校の統合については9割以上が賛成。小中一貫校については、賛成62%。現状のまま29%、その他4%、未回答5%でした。

アンケート結果では、神戸小学校児童の減少という事態を1日でも早く解消し、健全な集団学校生活の回復をめざすためには、神戸小学校と美和小学校の統合という結論が出ています。

これを受けて、江山校区の学校の在り方を考える会で協議した結果、神戸小学校・美和小学校・江山中学校での小中一貫校が望ましいという方向をとりまとめました。

考える会では、美穂・大和・神戸地区の伝統文化を継承しつつ、子ども同士のつながりを深めるとともに、小中一貫校の9学年という多学年との対話をもとにした交流を軸として、学校生活や学力の向上を含め、自分の考えや思いを伝えられる力や誰とでも関わることができるコミュニケーション能力の高い子どもを育成してほしいと願います。そのためにも、地域住民が積極的に学校と関わりを持てる組織体制を整えていきたいと考えています。

つきましては、神戸、美和小学校と江山中学校の児童生徒の現状を考え、3校による小中一貫校設立の検討をお願いします。

平成29年9月19日

鳥取市教育委員会
教育長 尾室 高志 様

江山校区の学校のあり方を考える会
会長 近藤 浩和



江山校区の学校のあり方について（要望）

江山中学校区の神戸小学校と美和小学校、江山中学校は小規模化が進み、平成24年の第11期校区審議会において、優先度が高い「小規模化により教育上の問題が発生する（懸念される）」として学校規模過小規模校A1に指定されました。

神戸地区は平成28年に「近隣の小中学校との小中一貫校又は統合等を望む」要望書を鳥取市教育長へ提出しました。

それを受けて、28年に美穂・大和地区は神戸地区を含め、3地区の代表からなる「江山校区の学校のあり方を考える会」を組織しました。神戸小学校の要望と江山中学校区の学校の現状と今後の方向性についての地区説明会を開きました。また、委員や各地区の方と小中一貫校に出向いて視察会を行い、18歳以上の美穂・大和地区の住民を対象として、今後の江山校区の学校のあり方を問うアンケートを実施しました。

アンケートの結果は、神戸小学校と美和小学校の統合については9割以上が賛成。小中一貫校については、賛成62%。現状のまま29%、その他4%、未回答5%でした。

アンケート結果では、神戸小学校児童の減少という事態を1日でも早く解消し、健全な集団学校生活の回復をめざすためには、神戸小学校と美和小学校の統合という結論が出ています。

これを受けて、江山校区の学校の在り方を考える会で協議した結果、神戸小学校・美和小学校・江山中学校での小中一貫校が望ましいという方向をとりまとめました。

考える会では、美穂・大和・神戸地区の伝統文化を継承しつつ、子ども同士のつながりを深めるとともに、小中一貫校の9学年という多学年との対話をもとにした交流を軸として、学校生活や学力の向上を含め、自分の考えや思いを伝えられる力や誰とでも関わることができるコミュニケーション能力の高い子どもを育成してほしいと願います。そのためにも、地域住民が積極的に学校と関わりを持てる組織体制を整えていきたいと考えています。

つきましては、神戸、美和小学校と江山中学校の児童生徒の現状を考え、3校による小中一貫校設立の検討をお願いします。

江山校区の学校のあり方を考える会要望書提出までの経過

平成25年

- 1月 「第11期校区審議会中間まとめ」
神戸小と江山中を含む5小学校と3中学校が、「A（学校規模の問題）」
「1（過小規模校：概ね6学級未満の小中学校）」に分類される。
この中で、「神戸小のみではなく、江山中全体であり方を検討すべき。
学校統合を基本とし、小中一貫校の可能性も考慮すべき。」とされた。

平成27年

- 4月 「第12期校区審議会中間まとめ」
この中で、「将来的に江山中校区をどうするかという方向性をまとめる
必要がある。」とされた。
5月 「かんどの教育を考える会」設立

平成28年

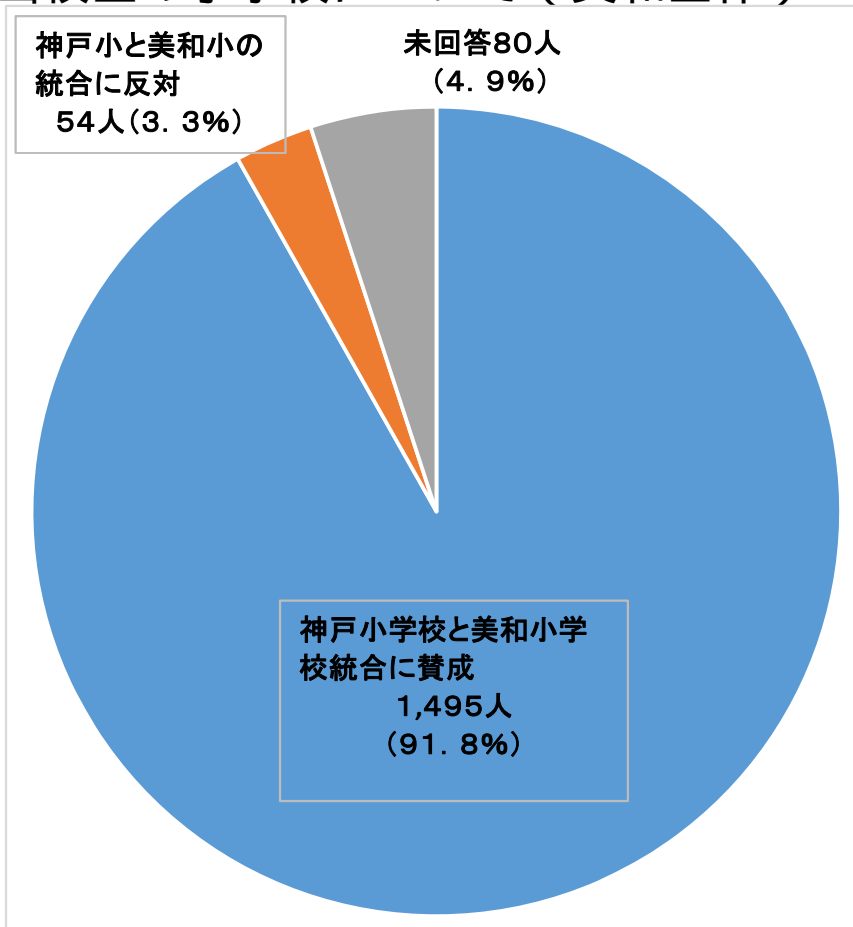
- 2月 「かんどの教育を考える会」による住民アンケート（18歳以上）
（小中一貫校43%、統合31%、単独17%、その他9%）
7月 「かんどの教育を考える会」から要望書
近隣小中学校との小中一貫校、近隣小学校との統合
10月 「江山校区の学校のあり方を考える会」設立

平成29年

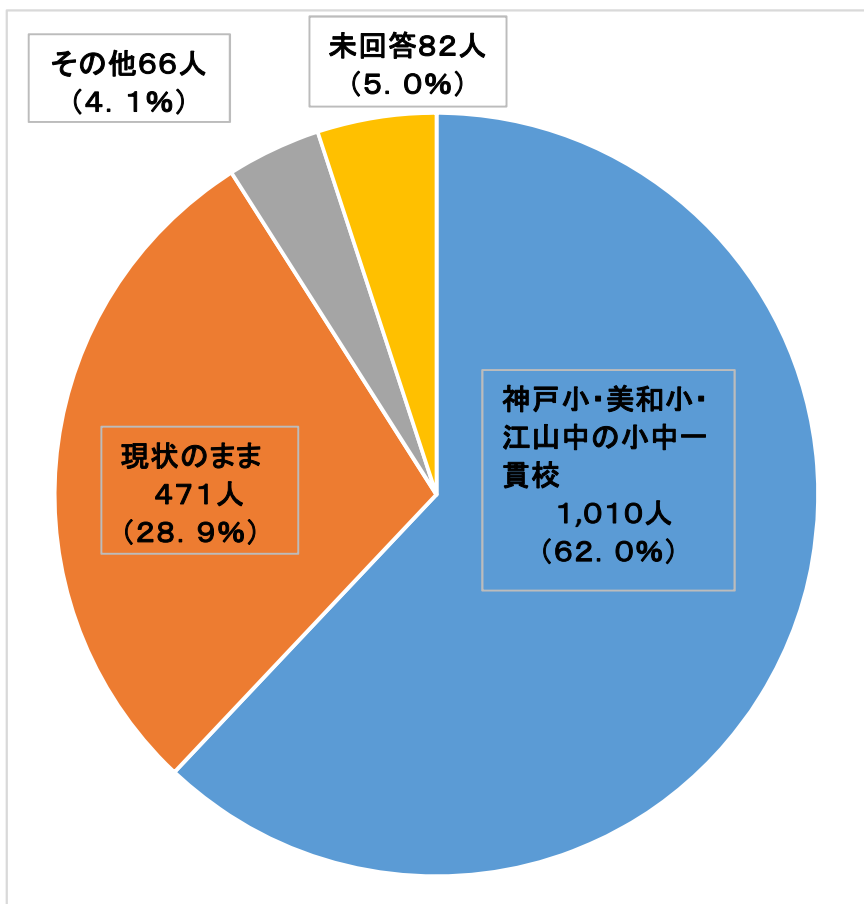
- 1月 小中一貫校の視察
2月 住民アンケート実施
5月 アンケート結果説明会（各公民館）
7月 要望書の検討
8月 アンケート結果、要望書案の全戸配布
（小学校統合賛成92%、反対3%）
（中学校小中一貫校62%、現状29%、その他4%）

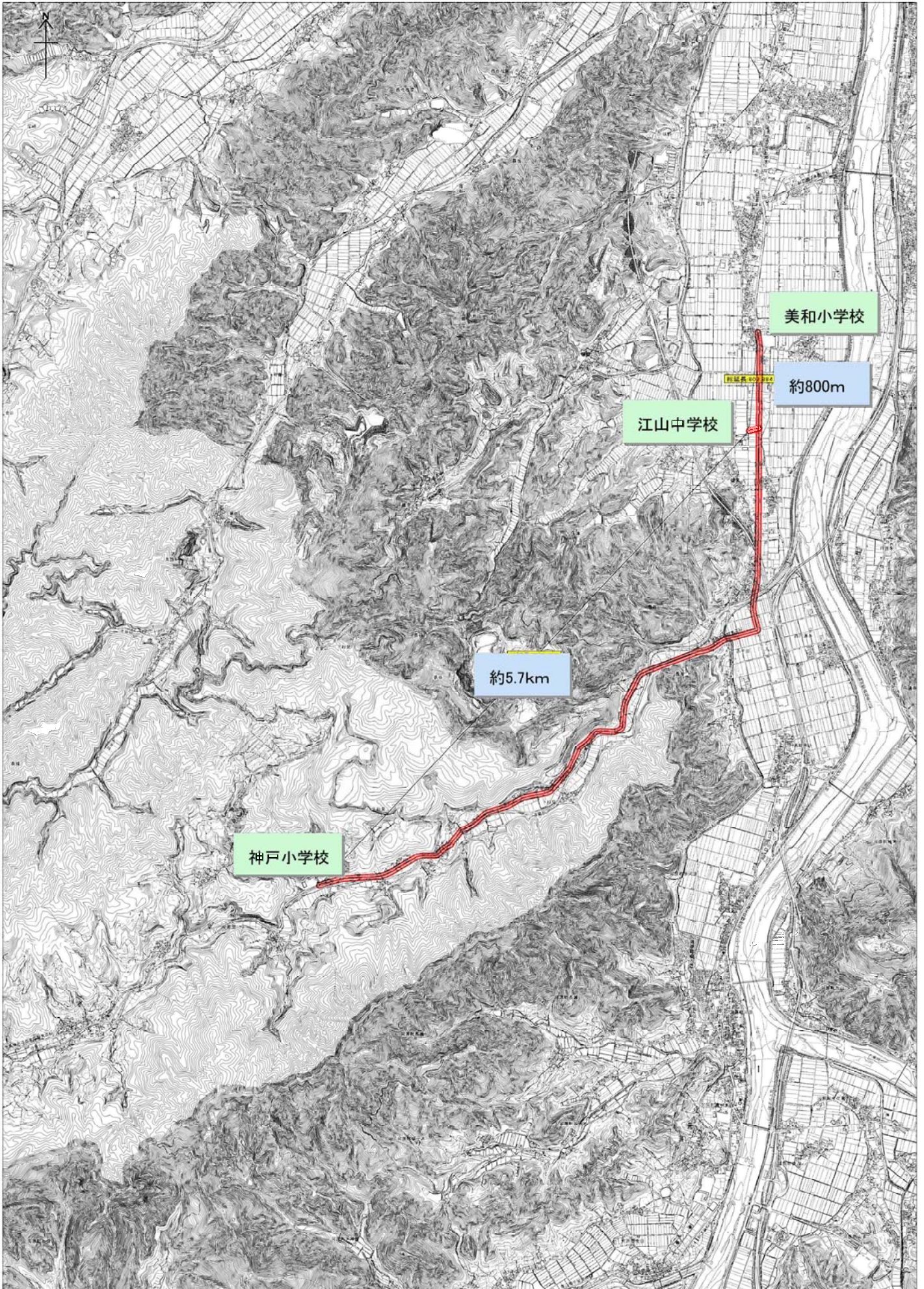
資料1 美和地区のアンケート結果

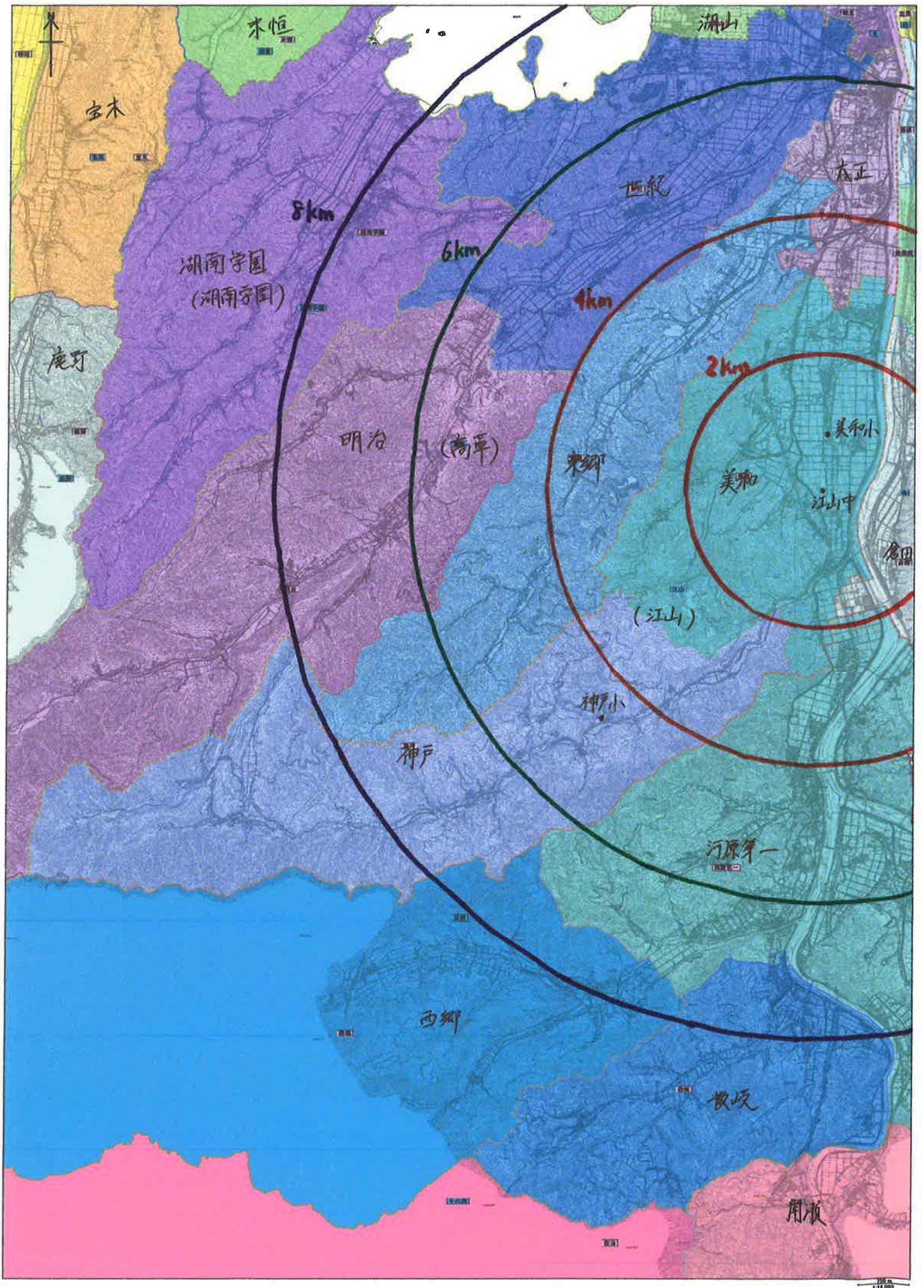
江山校区の小学校について（美和全体）



江山校区の中学校について（美和全体）







< 参考 >



平成 28 年 7 月 22 日

鳥取市教育委員会
教育長 木下 法広 様

かんだの教育を考える会
会長 栗本 保夫



神戸小学校の今後について (要望)

神戸小学校は平成 25 年に鳥取市の校区審議会において「小規模化に伴う教育効果が懸念されるため早急に議論が必要な学校区」と位置づけられました。

それ以来、地域づくり協議会を中心に PTA や区長会と協力して地域の住民との話合いやアンケートによる意向調査等を進めて参りました。

平成 27 年度には取組みをさらに深めるべく「かんだの教育を考える会」を設立し調査・研究を行い、平成 28 年 2 月には 18 歳以上の全住民を対象に、児童数推移資料を添付して、神戸小学校の今後についてアンケート調査を行いました。

その中で、近隣小中学校との小中一貫校又は近隣小学校との統合等を望む回答が約 8 割にのぼり、現状を変えていく必要があるという声が多いという結果が表れました。

神戸小学校は残したい、しかしながらここまで小規模になると、子供達の教育環境として望ましくないというのが多くの意見でした。

それらをふまえ、「かんだの教育を考える会」で協議をした結果、以下の要望を地域の総意として提出する事といたします。

要望

神戸地域では、平成 28 年度には全校児童数が 30 名を下回るなど児童数減少下にあります。今後もその傾向が続くことが予測され、地域として児童数減少が子どもの学力向上や集団生活等に重大な影響を及ぼすことを危惧しており、近隣小中学校との小中一貫校又は近隣小学校との統合等、神戸の子供達の成長にとってより良い教育環境を早期に整備していただくよう要望いたします。